

◆ それは本当に無理か ◆

「戦後、10区でこの差を逆転した例はない。」（1月4日付 朝日新聞12面）

年の初めに行われる箱根駅伝。今年は、終盤に大きなドラマが待っていた。9区の終了までは、誰もがこういった展開を予想だにしなかったに違いない。この時点でトップの創価大との差は3分19秒。しかし、駒澤大の大八木監督は鼓舞し続けた。

「…いいか、ここだ、ここからだ！」（同新聞より）

10区は23kmの長丁場。最終区間でもあり様々なアクシデントが起こりやすいとされる。その残り2km付近で、駒澤大の石川選手はスパートをかけた。そしてそのままトップでゴールイン。

箱根駅伝を描いた、三浦しをんさんの小説『風が強く吹いている』にこんな一節がある。

「長距離選手に対する、一番の褒め言葉がなにかわかるか」

「速い、ですか？」

「いいや、『強い』だよ」

今回のレースにあたり、大八木監督は当日までメンバー変更に腐心したときく。それだけ選手層が厚く、襷にかける思いの“強さ”がこの結果をもたらしたのかもしれない。

相変わらず厳しい状況の年明けとなった。これからも、アクシデントが想定される。しかしながら、様々な行事が様々な感染対策を施しながら実施されている。本校も、文化祭は中止としたが、その他の行事は、工夫を凝らしながら中止せずに実施してきた。

校内駅伝大会のことを思い出す。何とか襷を繋ごうと懸命に走る姿。一所懸命さは人に感動を与える。

3年生は、これからいよいよ正念場だ。挫けそうになった時は、こう問いかけよう。

「それは本当に無理か おのれの力はこんなものか」

何か根性論のようになってしまったが、ピョンチャン五輪銅メダリストのハビエル・フェルナンデスの言葉を繰り返す。

「結果なんかどうでもいい。これまでどれだけ「努力」してきたかが大事。」

努力を続けることができる人は、本当に“強い”と思う…。

